

ヒメイタビ (葉・果実)

[木本] 《忌避》



岩や樹幹を這う。



オオイタビ。葉は楕円形で大小の2型がある。



葉は卵状楕円形で先はやや尖る。

区別のポイント

傷つけると白い液を出す。葉の裏面は葉脈が突出する。脈状と葉柄には褐色の開出毛がある。

形態 常緑藤本。

分布 本州（千葉県以西）・四国・九州・沖縄

名前の由来 イタビはイヌビワの意。イタビカズラより小型であるから。

葉 〈全体〉卵形または卵状楕円形で長さ2～6 cm、幅1～3 cm。

〈付き方〉互生。

〈葉柄〉長さ3～10 mmではじめは褐色の開出毛が密生する。

〈基部〉円形。

〈葉先〉やや尖る。

〈縁〉全縁だが幼木の葉には2～3個の大きな鋸歯がある。

備考 広島の宮島では食草。

出典 4, 5, ※